

令和5年度ブラッシュアップ事業 授業改善研修会（中学校・英語）

授業力ブラッシュアップ研修会は、学習指導要領の趣旨や内容等に基づいた指導改善を図るため、モデル授業の提案を中心とした授業改善研修会を通して、教員の一層の授業改善・充実の促進に資することを目的に行われています。今号は、10月11日に金ケ崎町立金ケ崎中学校で行われた中学校英語の研修会について紹介します。

～部会テーマ～

「言語活動を通して」一人一人の資質・能力を育成する授業づくり

～授業の視点～

- (1) 資質・能力を育成するために、言語活動を通じた単元の構想
- (2) 思考・判断が伴い、使いながら定着させる言語活動の設定
- (3) 即興で話す力を定着させるための、指導のあり方

～ブラッシュアップメンバー～

授業者 金ケ崎町立金ケ崎中学校
佐藤 和香奈 教諭

支援員 奥州市立水沢中学校
石田 克幸 教諭
奥州市立江刺第一中学校
藤田 美幸 教諭

Program6 「Live Life in True Harmony」

- ◆既習事項（小学校での学習も含めて）の振り返りから本時の課題を想起させることで、生徒の意欲が高められた導入だった。
- ◆生徒全員が話しやすい雰囲気の下、授業が進められました。話すことが「楽しい」という生徒の思いが伝わってくる授業であった。
- ◆即興でのやり取りにも臆することなく挑戦し、その対話の中から見られたミスを活用しながら、繰り返す言語活動を通して、生徒が思考・判断する姿を見ることができた。



授業の様子から

- ◆単元のゴールの活動を行う必然性を増すために、伝える相手やその理由を具体的にすると、テーマを与えることが必要ではないか。
- ◆生徒の言語活動量をしっかり確保されていた点良かったが、「何を」「どのくらい」話せばよいか詳しい提示があると更に良かった。
- ◆生徒の間違いへの対応が丁寧であった。全体で共有しながら「考える」「やってみる」という中間指導を行うことが大切である。

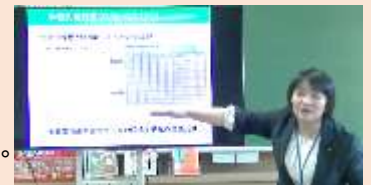
研究協議で 話題になったこと



講義・演習から学んだこと

「言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくり」 県南教育事務所 石亀 典子 主任指導主事

- ◆全国学力・学習状況調査から見えるもの
 - ・課題のある領域は？無答率、誤答分析を行うことで各校の課題を把握することが大切。
 - ・国や県が求めている「今何をすべきか」「今必要な力は何か」を明確にすることが大切。
- ◆バックワードデザインの単元構想
 - ・単元の終末ゴールを決める→繰り返す言語活動の明確化が必要。
 - ・言語活動を繰り返すたびに中間指導を入れる。→思考しながら使うことが大切。
- ◆「話すこと」を積み重ねることで「書くこと」「聞くこと」の力に繋がる。
- ◆デジタル教科書・ICT機器の活用（文科省の紹介VTRも参考になる）



授業改善に向けて

- ・生徒同士、生徒と教師のやり取りをもっと多く授業の中に設定し、そのやり取りの中から定着を図っていく方法を実践していきたいです。
- ・間違いを拾って、伝えていく・気づかせていく・修正していく。その中で「英語を話せるようになりたい！」というモチベーションが生まれると感じた。授業スタイルを見直し始めたところなので生徒の様子を見て生きた授業を展開していきたい。
- ・全体共有のやり方は様々あるが、文法定着の積み重ね、既習事項の確認の成果が出ている部分を参考にしたい。

＜参加者の声（一部抜粋）＞